

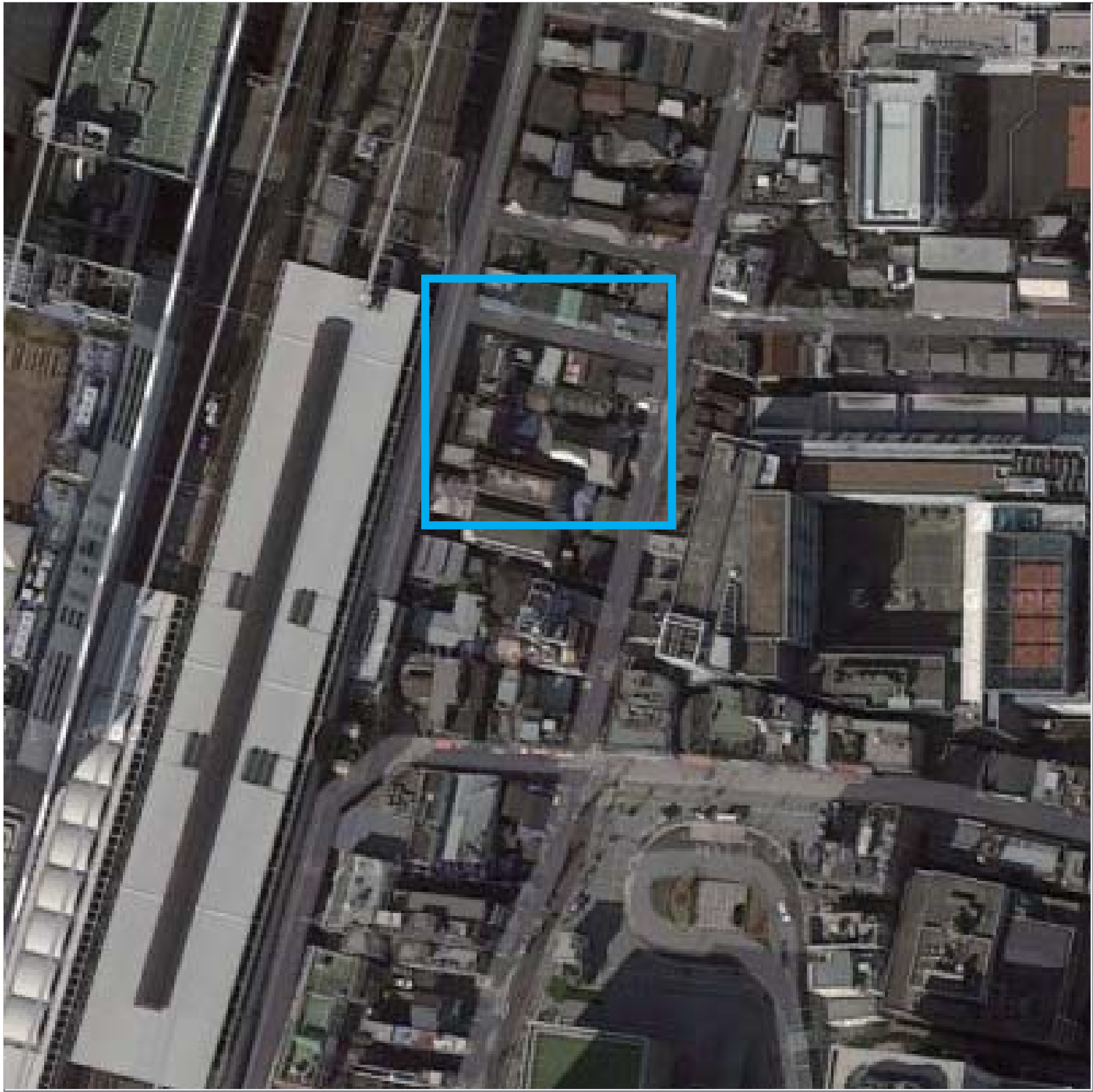
銭湯並びの美術館



Concept

銭湯での入浴は気持ちいい。
この心地よい感覚をもっと広げたい。
そんな単純な動機から生まれた計画である。
銭湯に潜む美。長い歴史を経て、結晶化した
大衆浴場の空間美は、時として現代人には境界
とさえなり、足が遠のく現状がある。
そこで本計画では、美術鑑賞を通し
銭湯に潜む美の要素を空間体験することで、
銭湯での入浴体験さえもが、美術鑑賞の一部と
なるような新しい美術館を提案したい。
美術館を出た後は、銭湯で熱い湯に浸かり、
銭湯絵を堪能し、コーヒー牛乳を飲み、商店街で
寄り道をすれば、素敵な時間を過ごせるだろう。

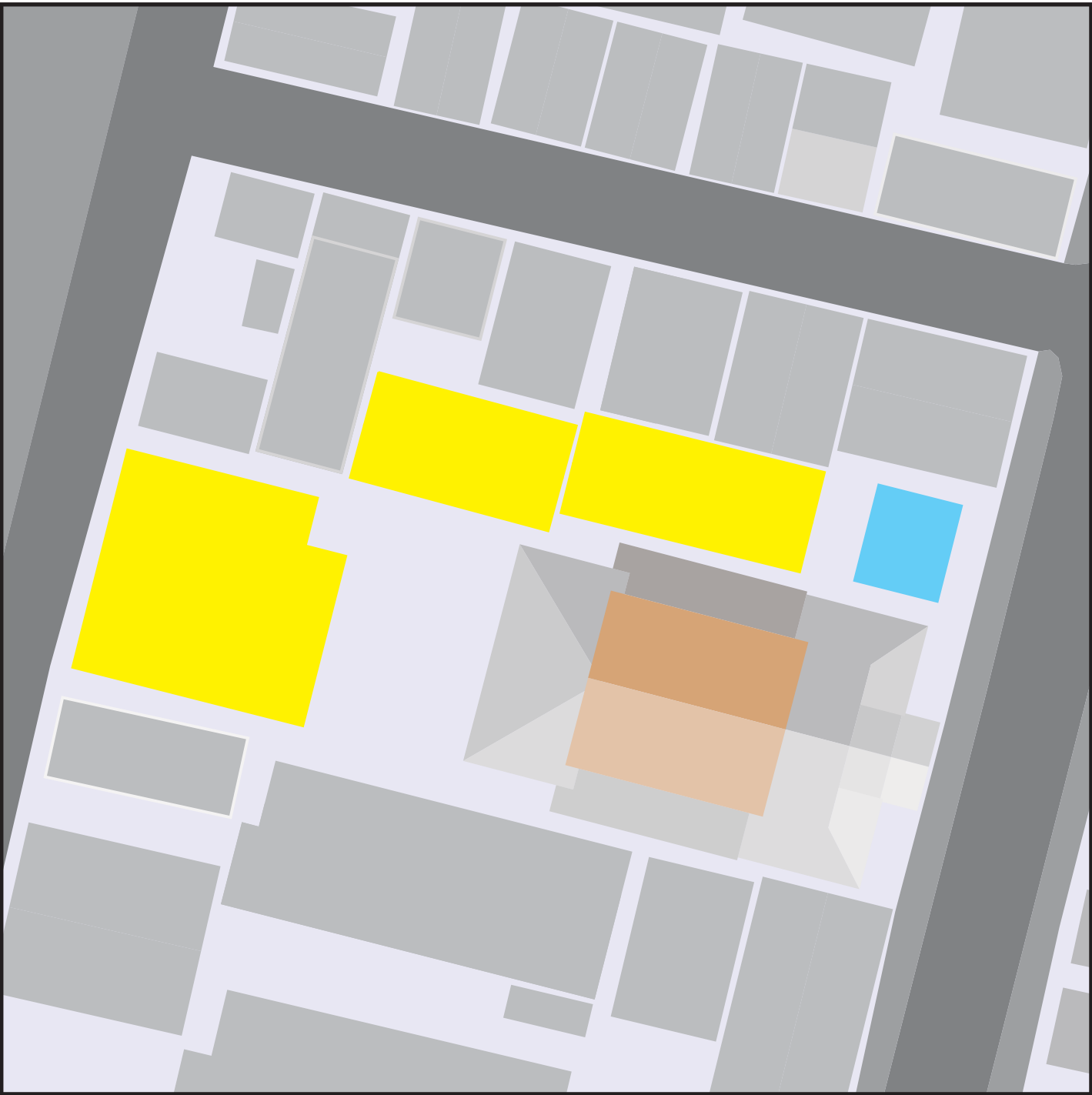
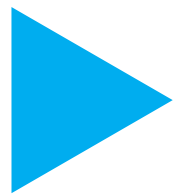
Site 北千住東口駅前 梅の湯周辺



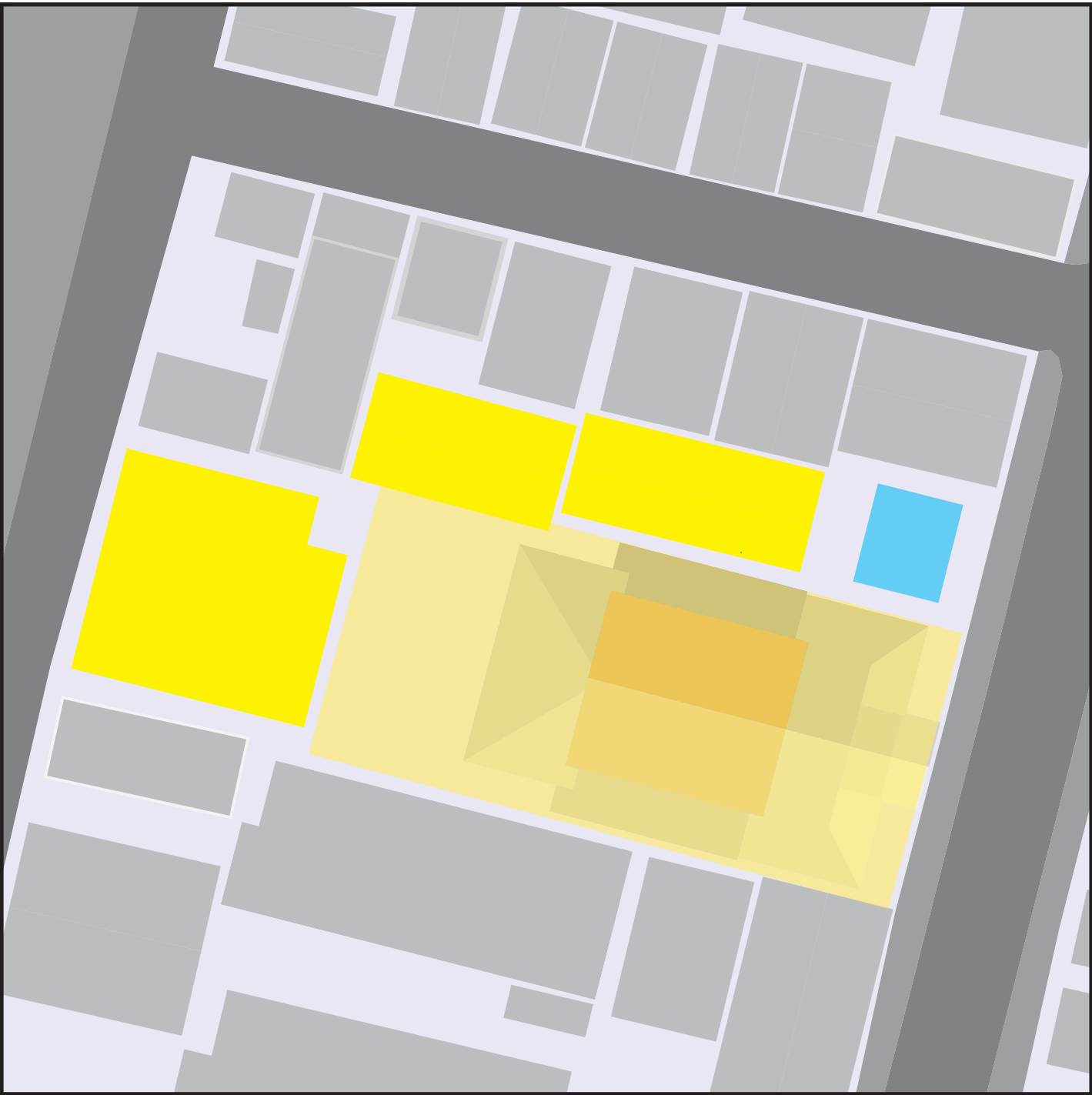
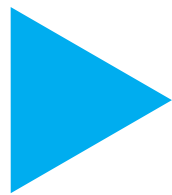
Diagram



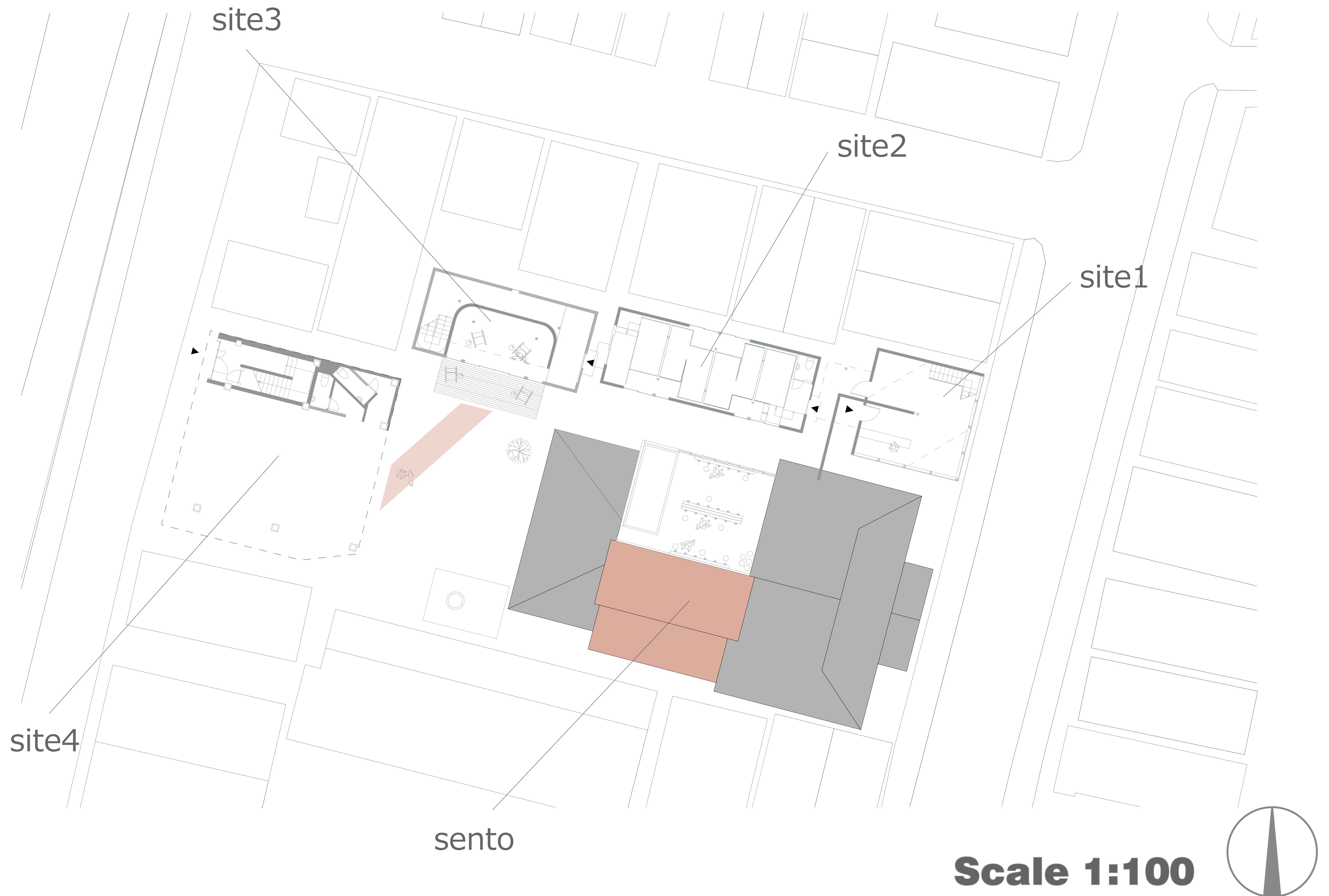
接道を満たさず、防災上危険な住居には、付近のビルを
コンバージョンして、転居してもらう。残った住居も
美術館スペースとしてコンバージョンする。



空き隣地に美術館エントランスを新設し、銭湯と並列して
銭湯空間とリンクするような展示空間を配置する。

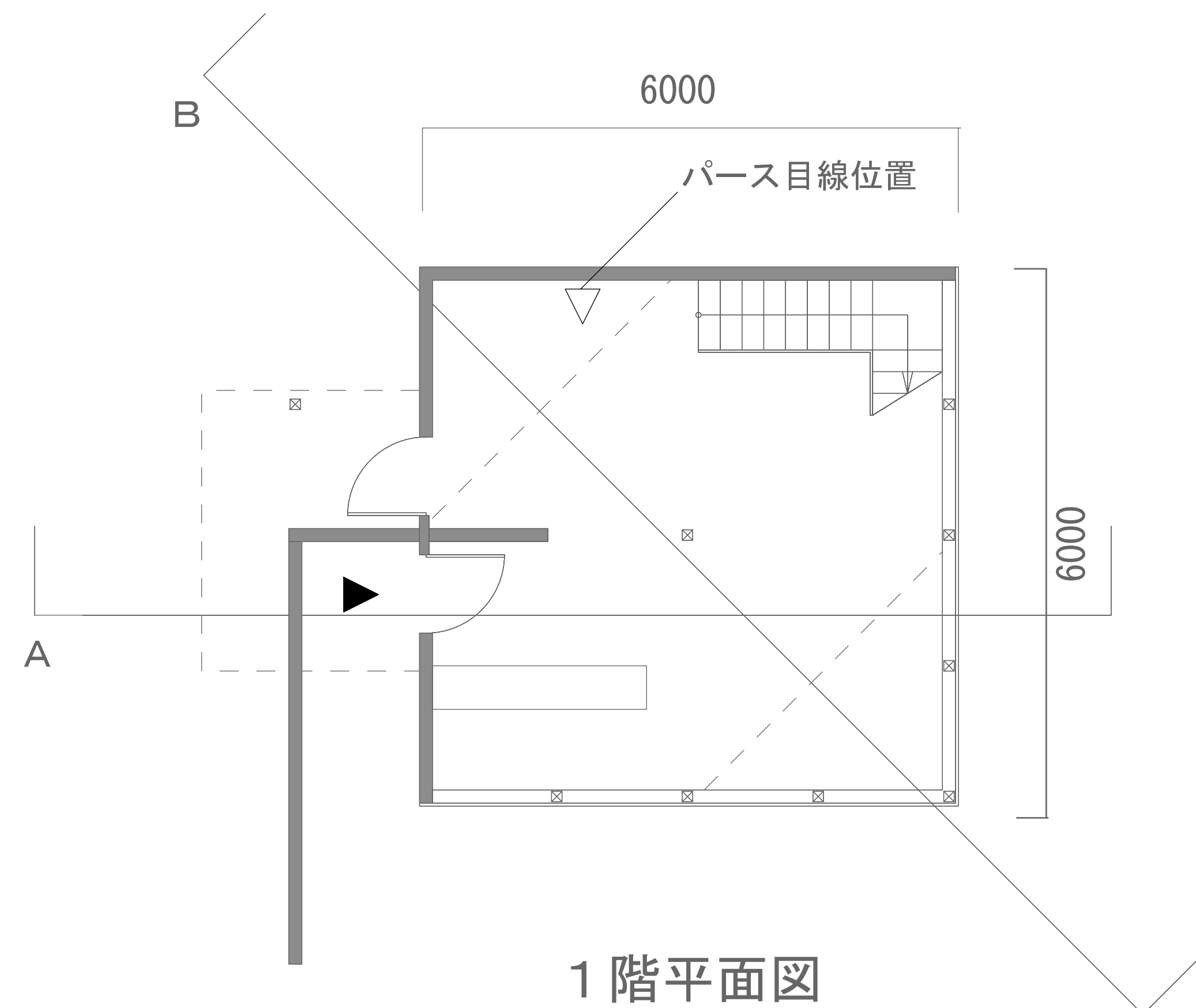
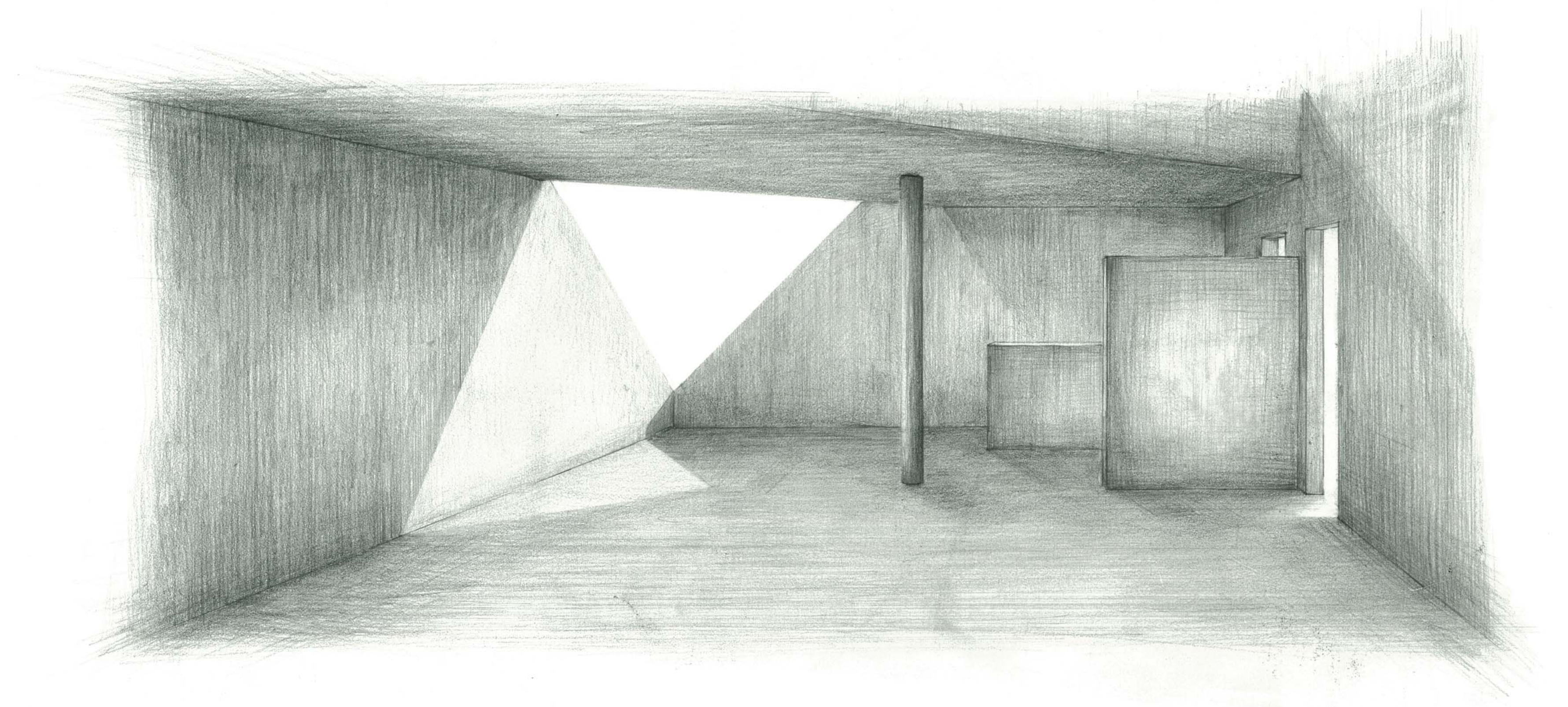


美術鑑賞空間を通して、銭湯へ向けられた意識が境界を
緩和し、銭湯での入浴体験さえも美術館賞の一部となる。

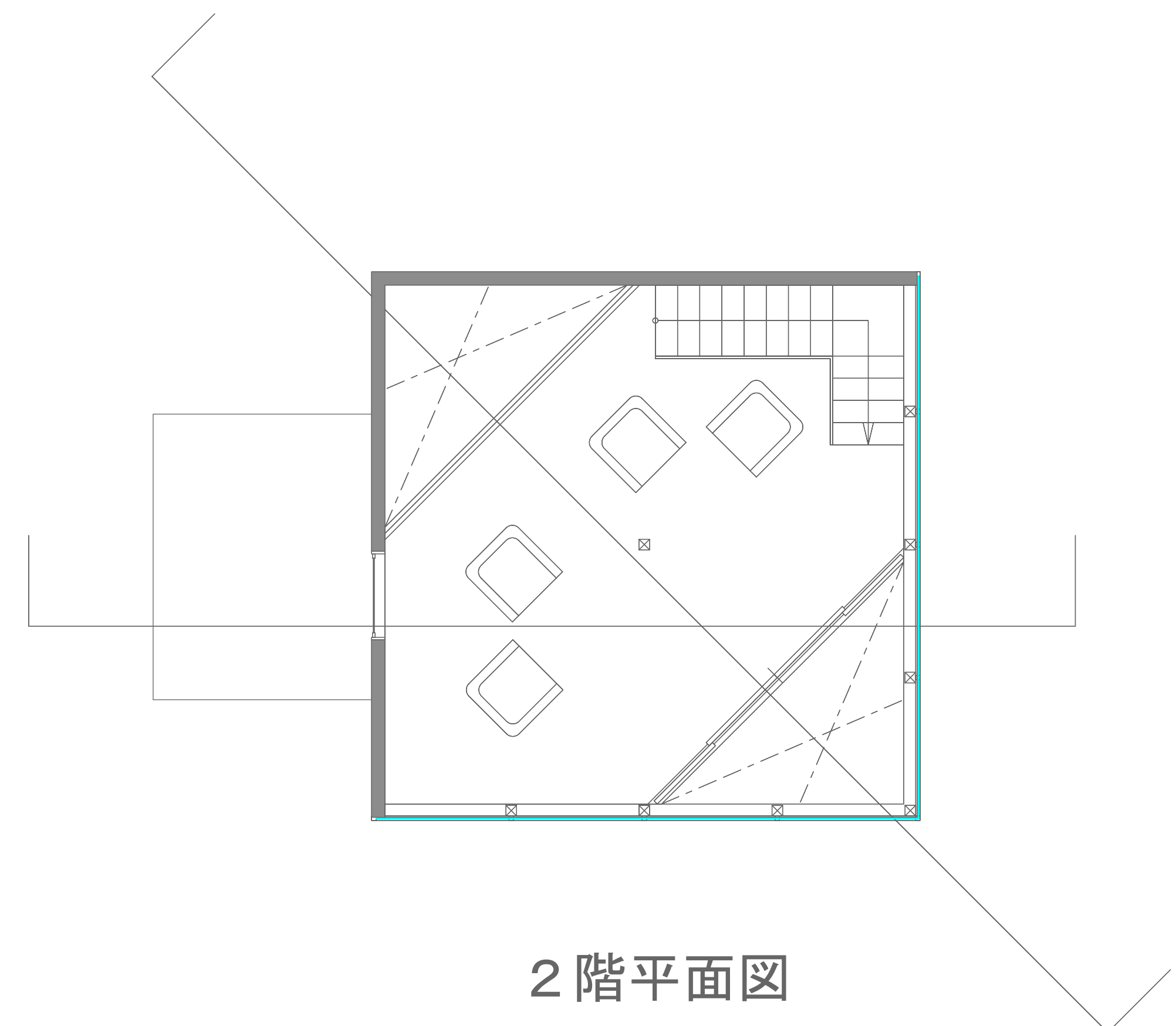


site1 エントランス

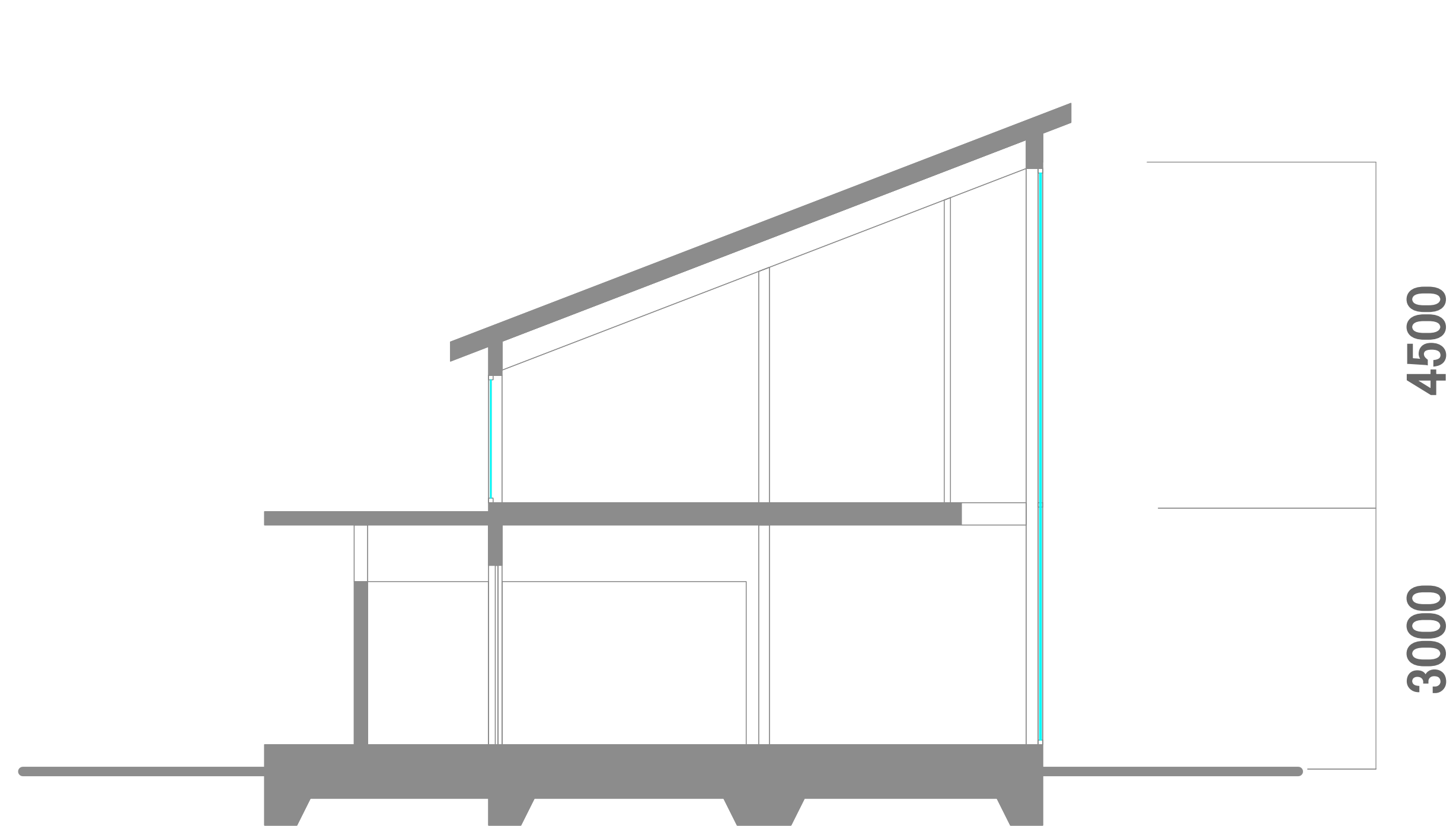
銭湯の浴場空間内部は
高窓からの光とタイルとの
反射で青が基調となっている。



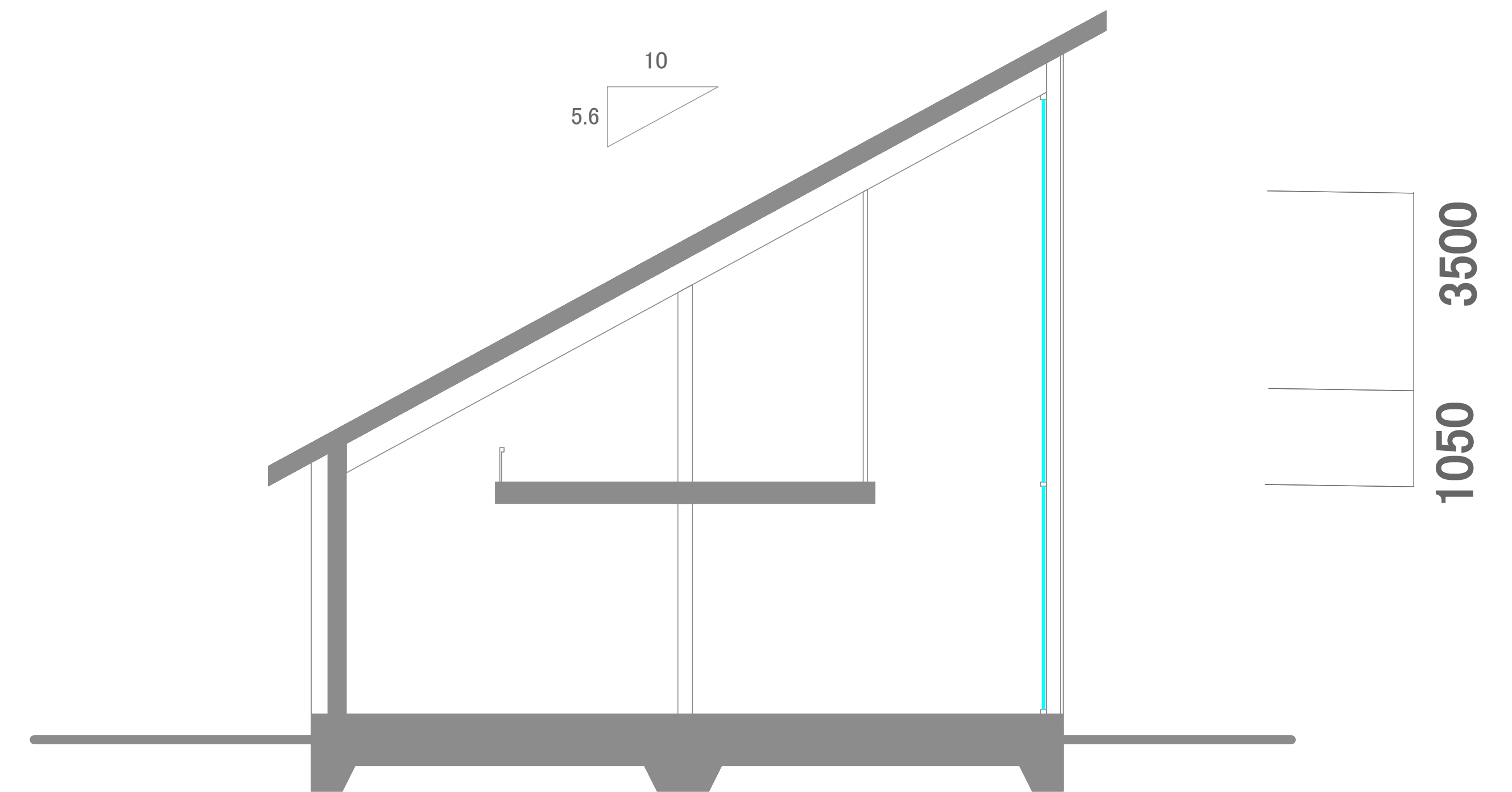
1 階平面図



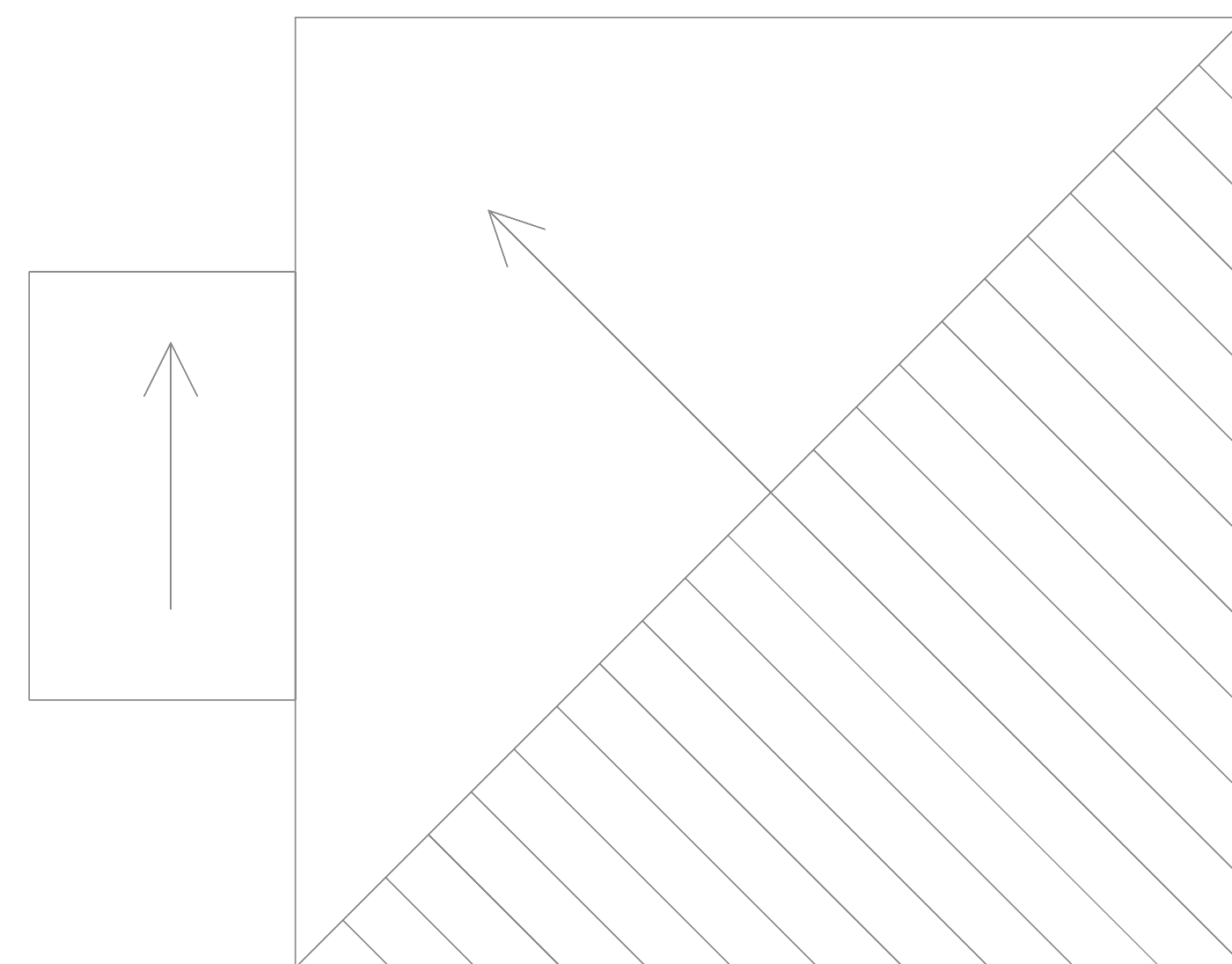
2 階平面図



A 断面図



B 断面図



屋根勾配



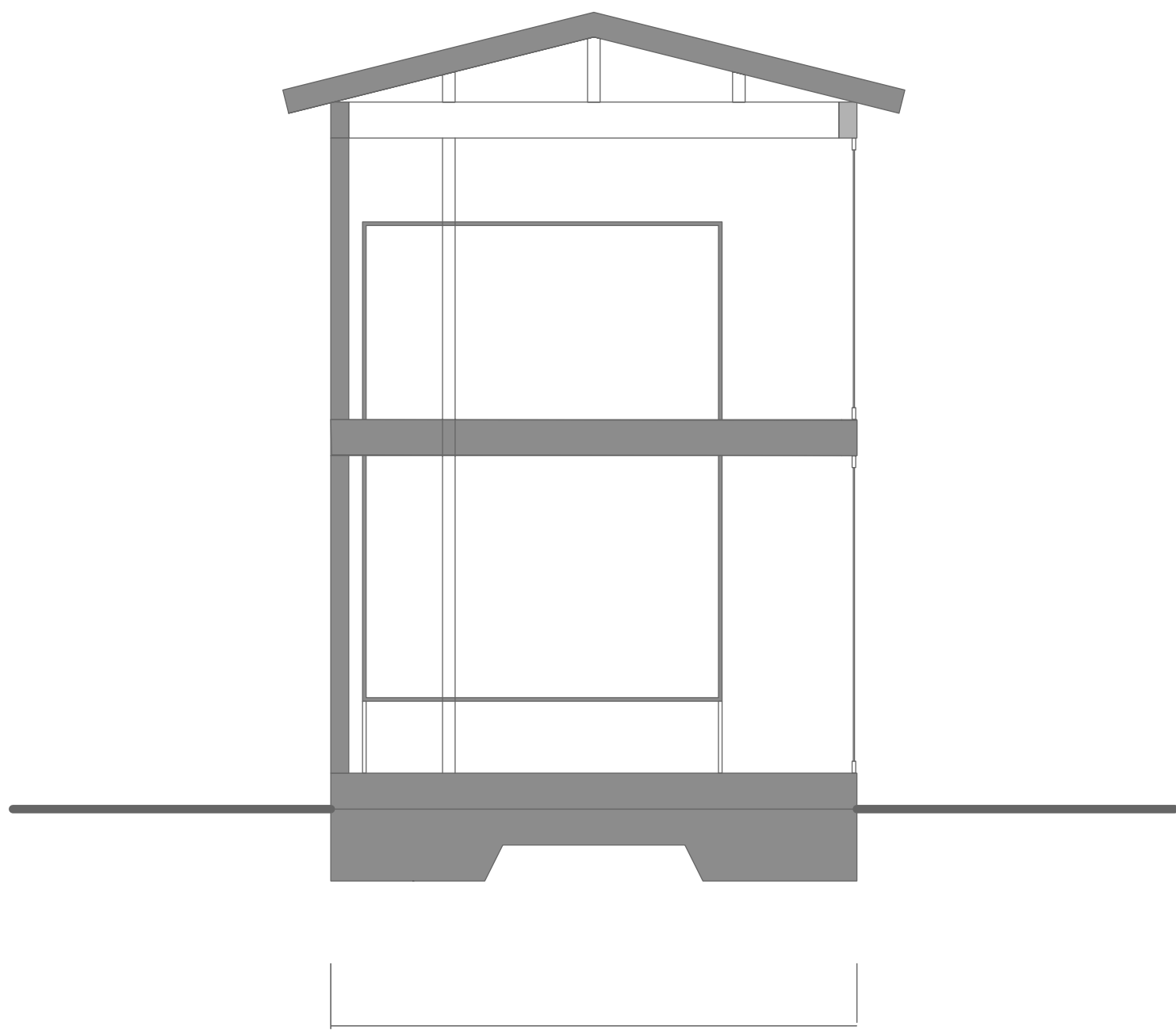
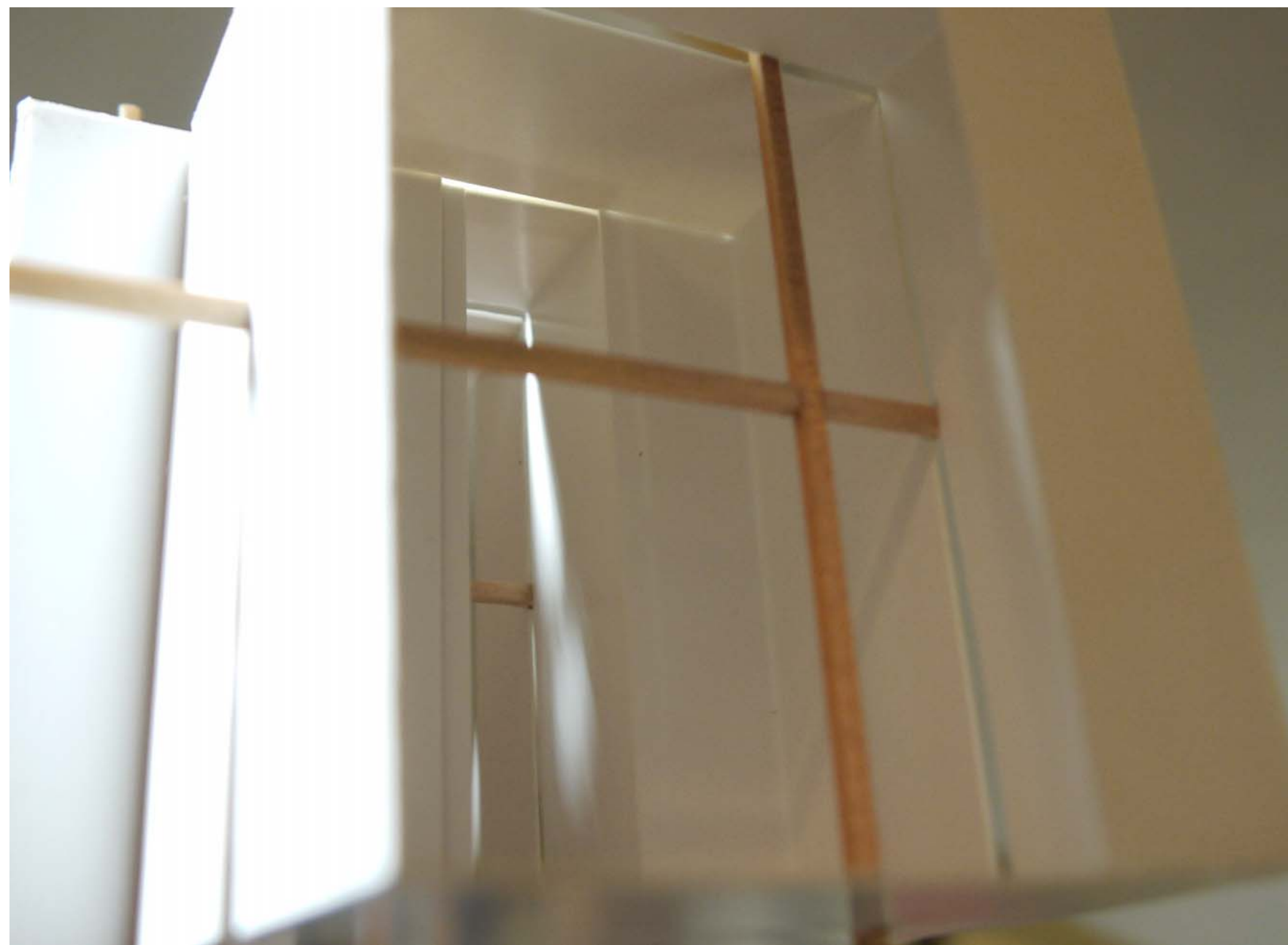
壁面は銭湯内部の青
窓枠は銭湯の屋根勾配との関係性
屋根裏を見せることで、銭湯の裏側への暗示



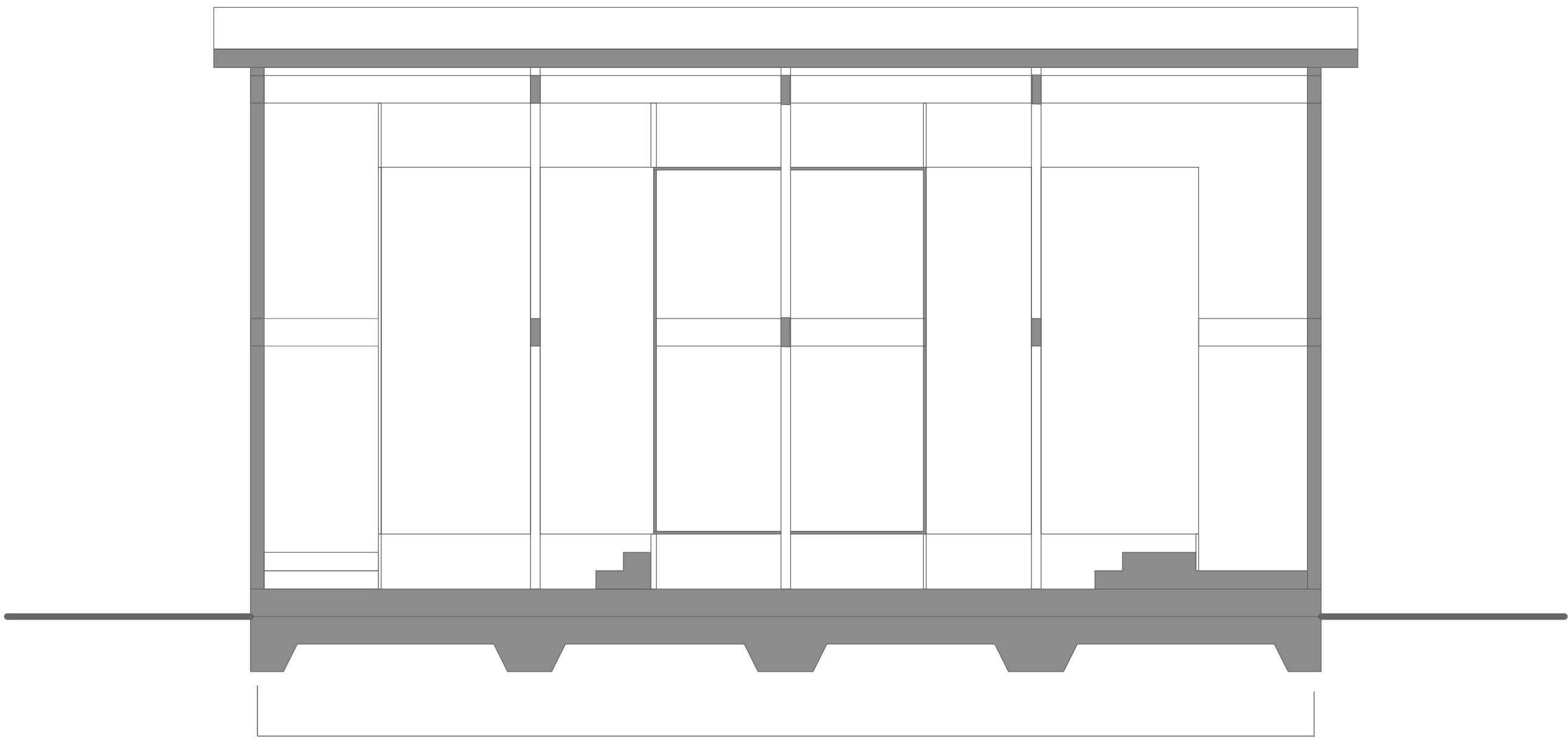
内部の光と影が、訪れる人々を美術館へと誘う

site2 銭湯タイルとグリッド

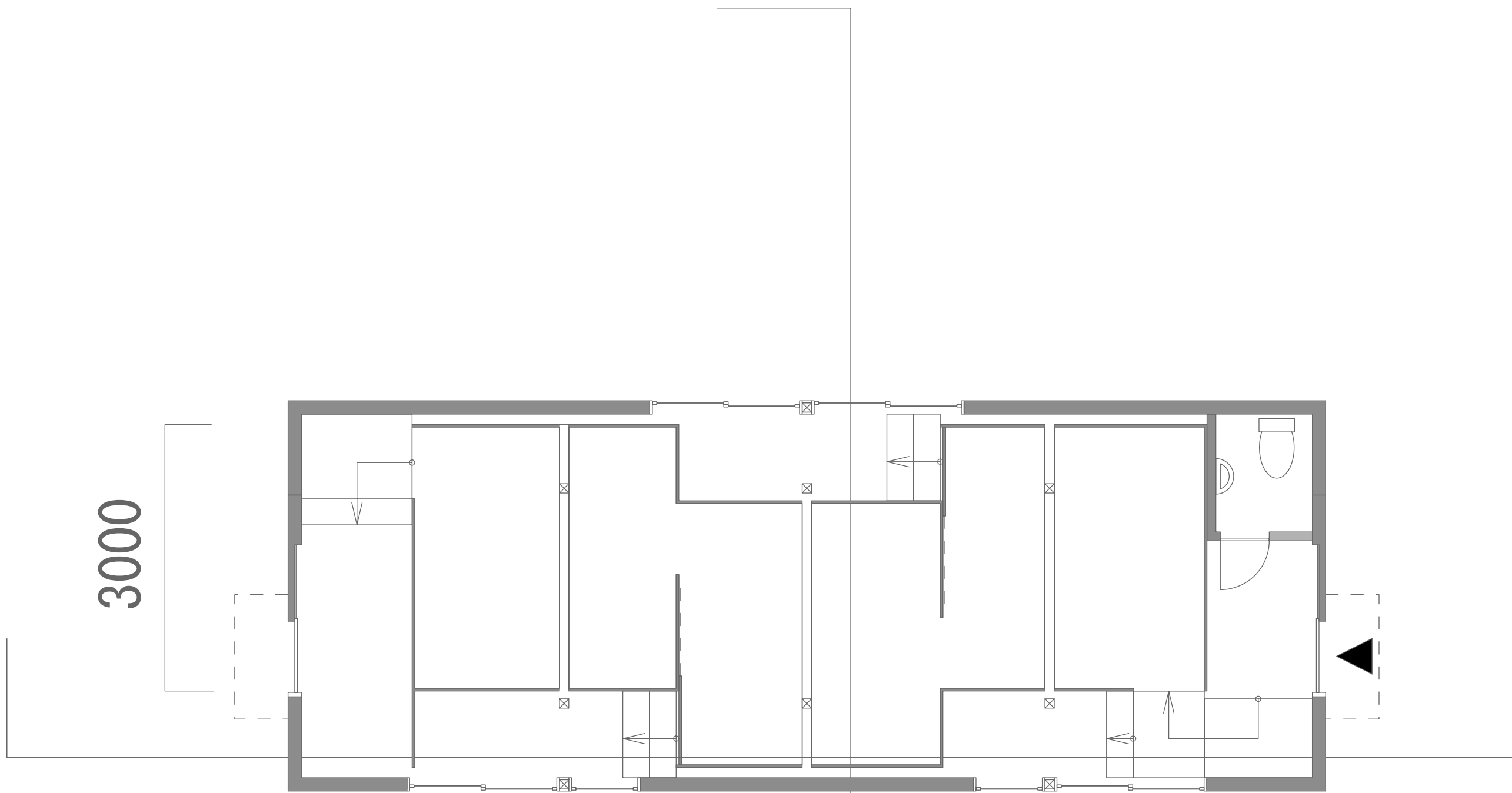
スケルトン化した民家に幅3m高さ4 mの
BOXを挿入し、柱梁部で分割する。
暗い箱部屋に光のグリッドが現れる。



4250
断面図



11520
断面図



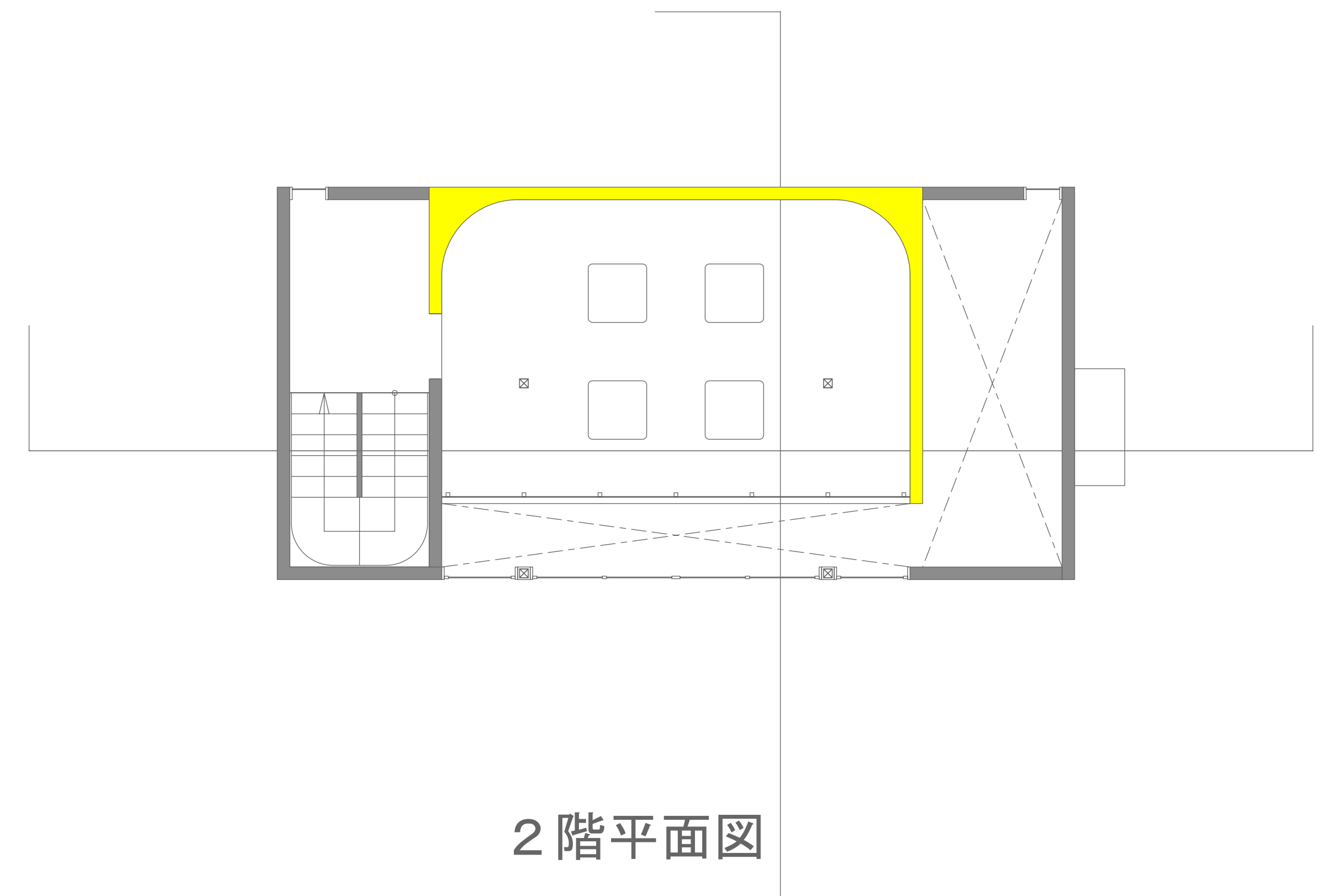
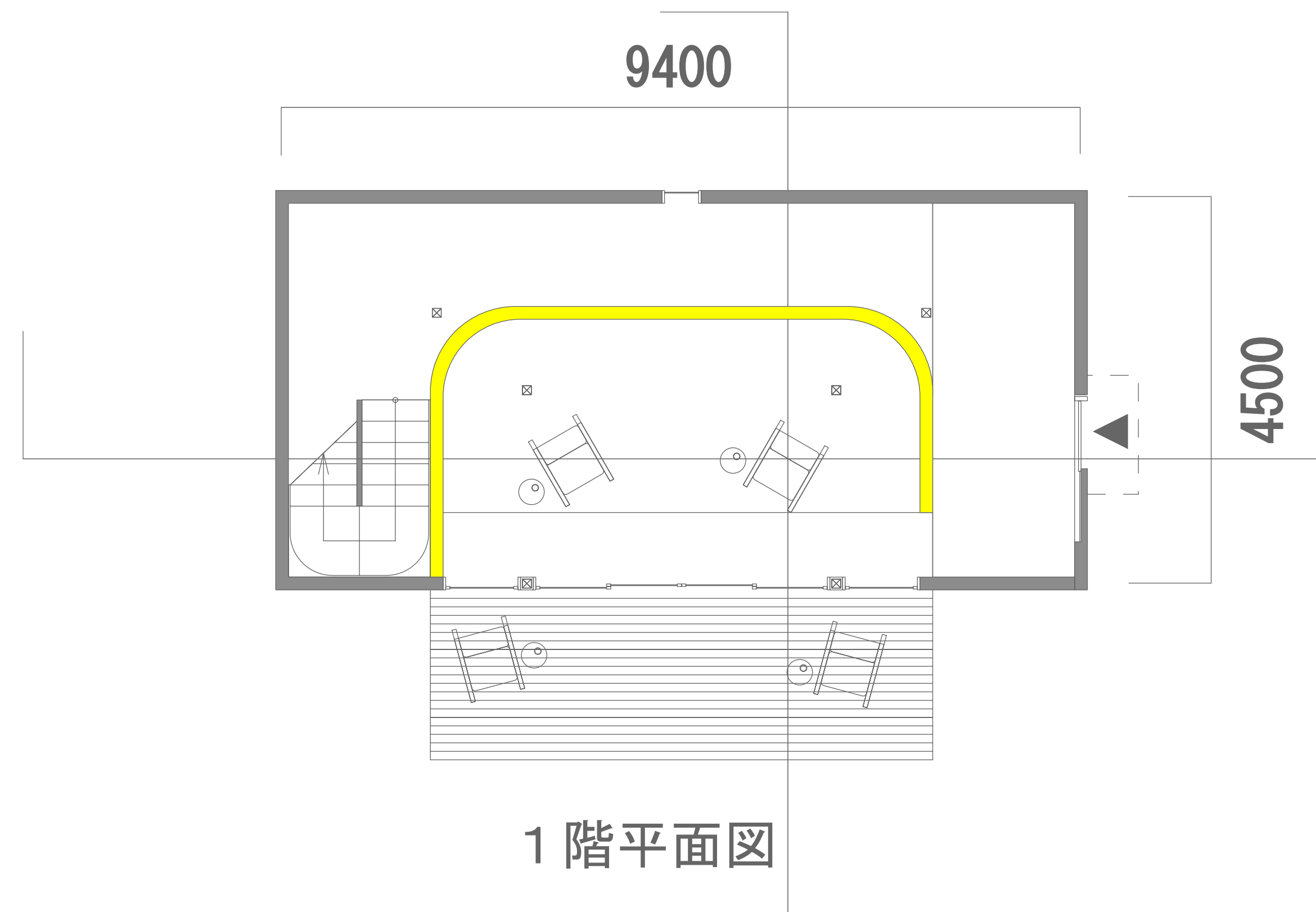
3000

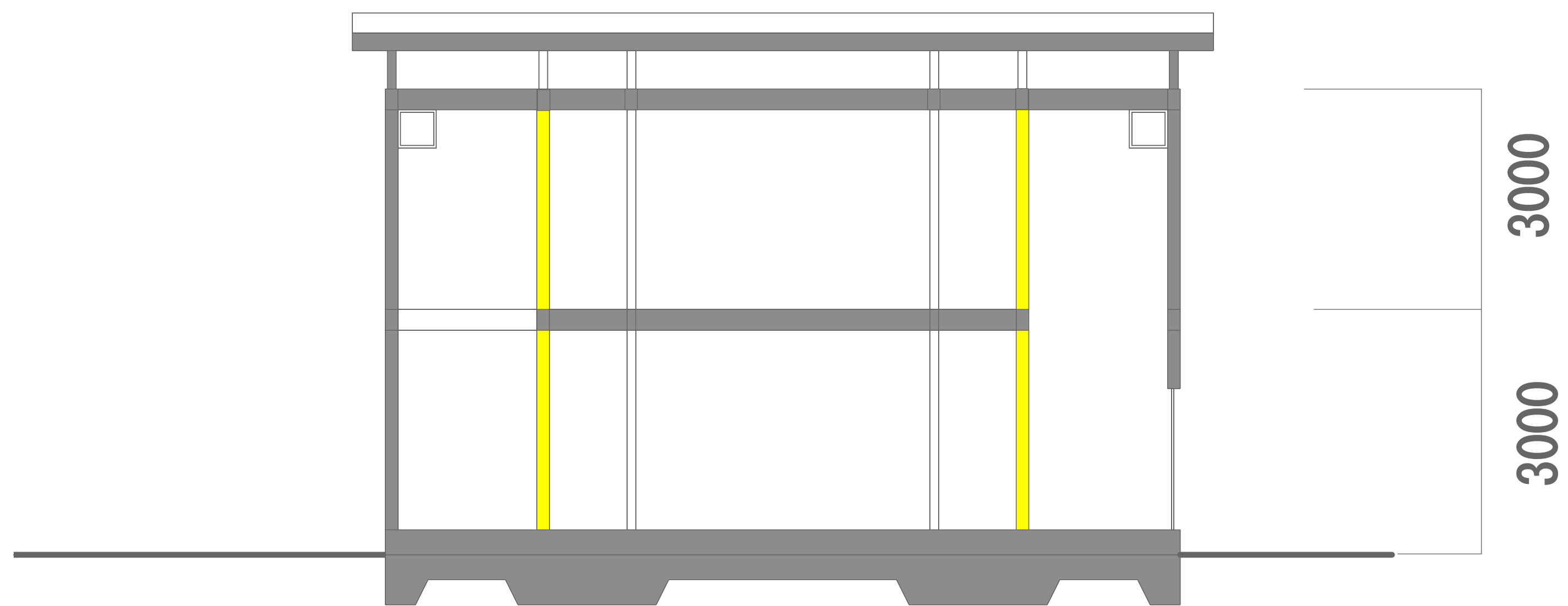
平面図

site3 ケロリン空間

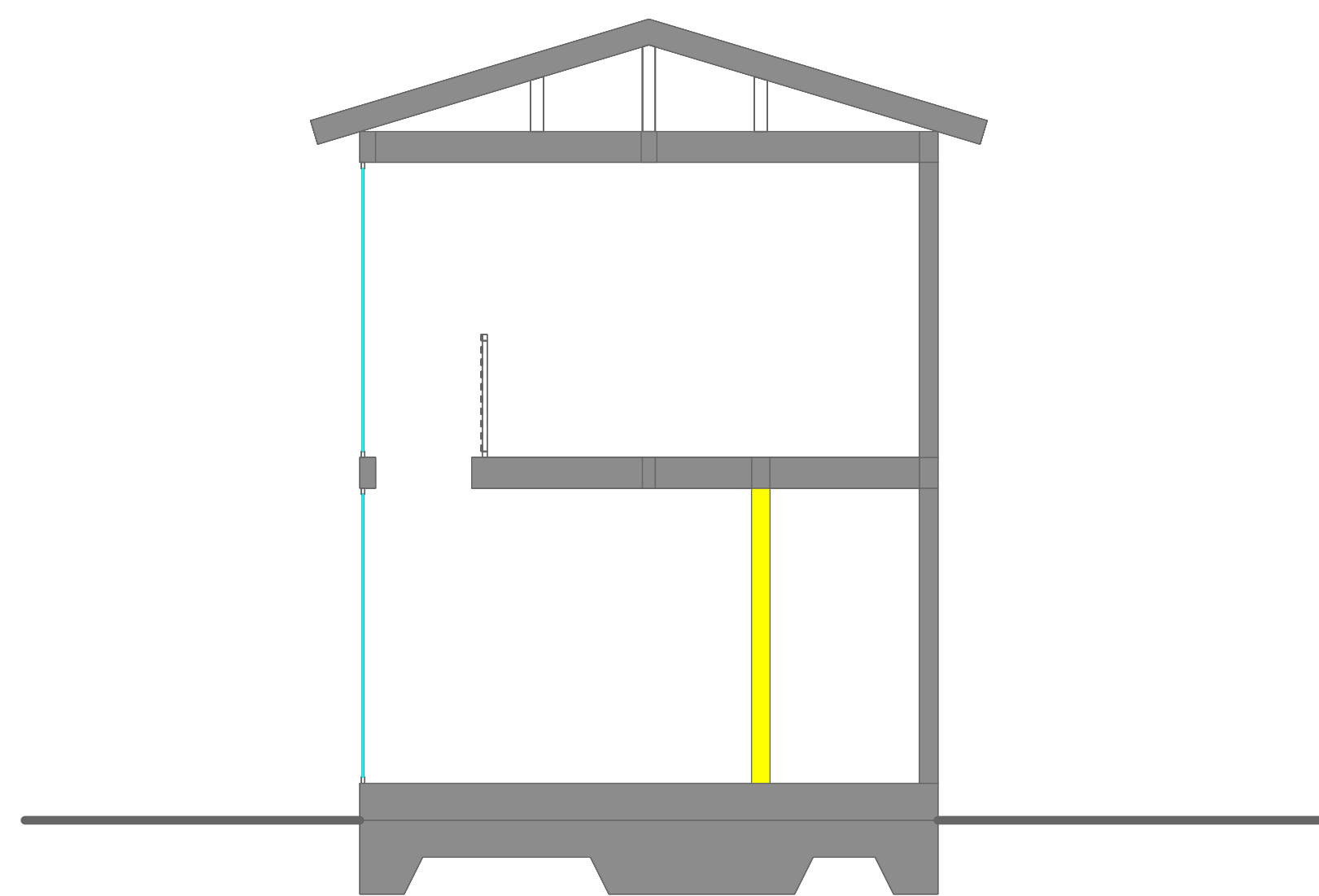
ケロリン桶の黄色
このわずかに透過性のある
黄色いプラスチックの桶は
銭湯にあふれる光を印象づけ
青い空間への対比となって浮かび上がる。

隅のない空間の壁に黄色を配色することで
黄色い光の反射や屈折をおこし、
ケロリン的空間が広がる事を期待する。

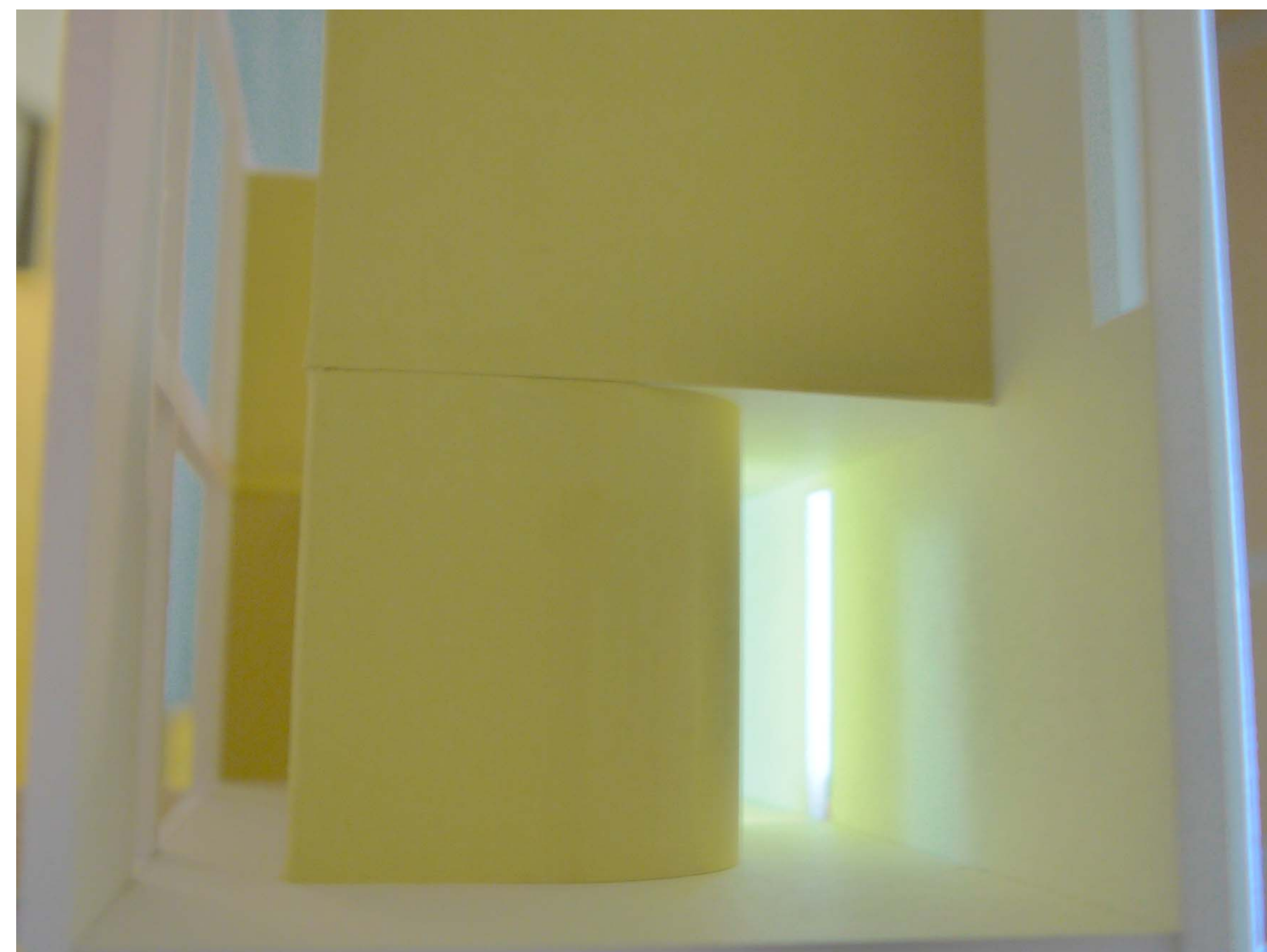
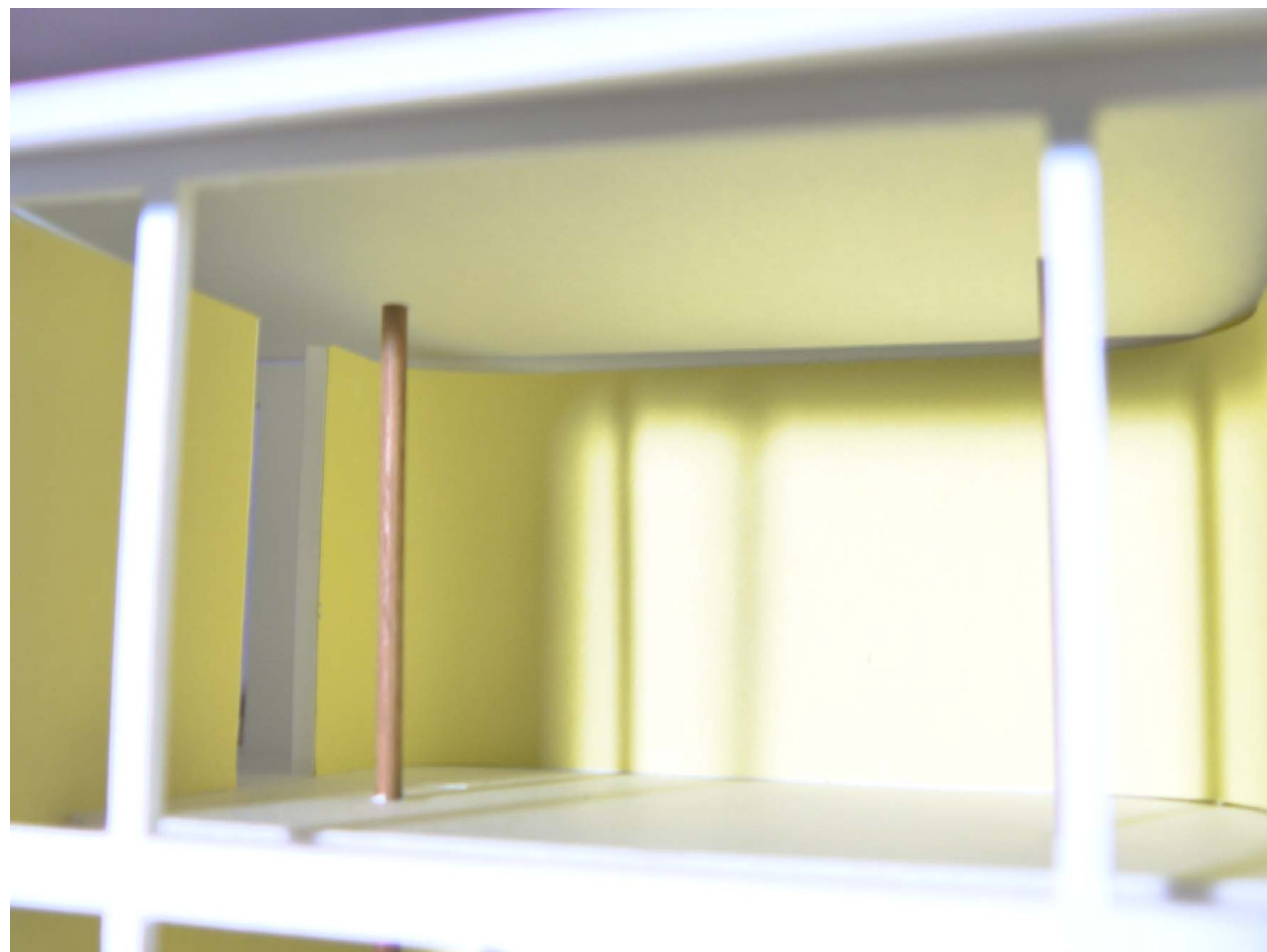




断面图

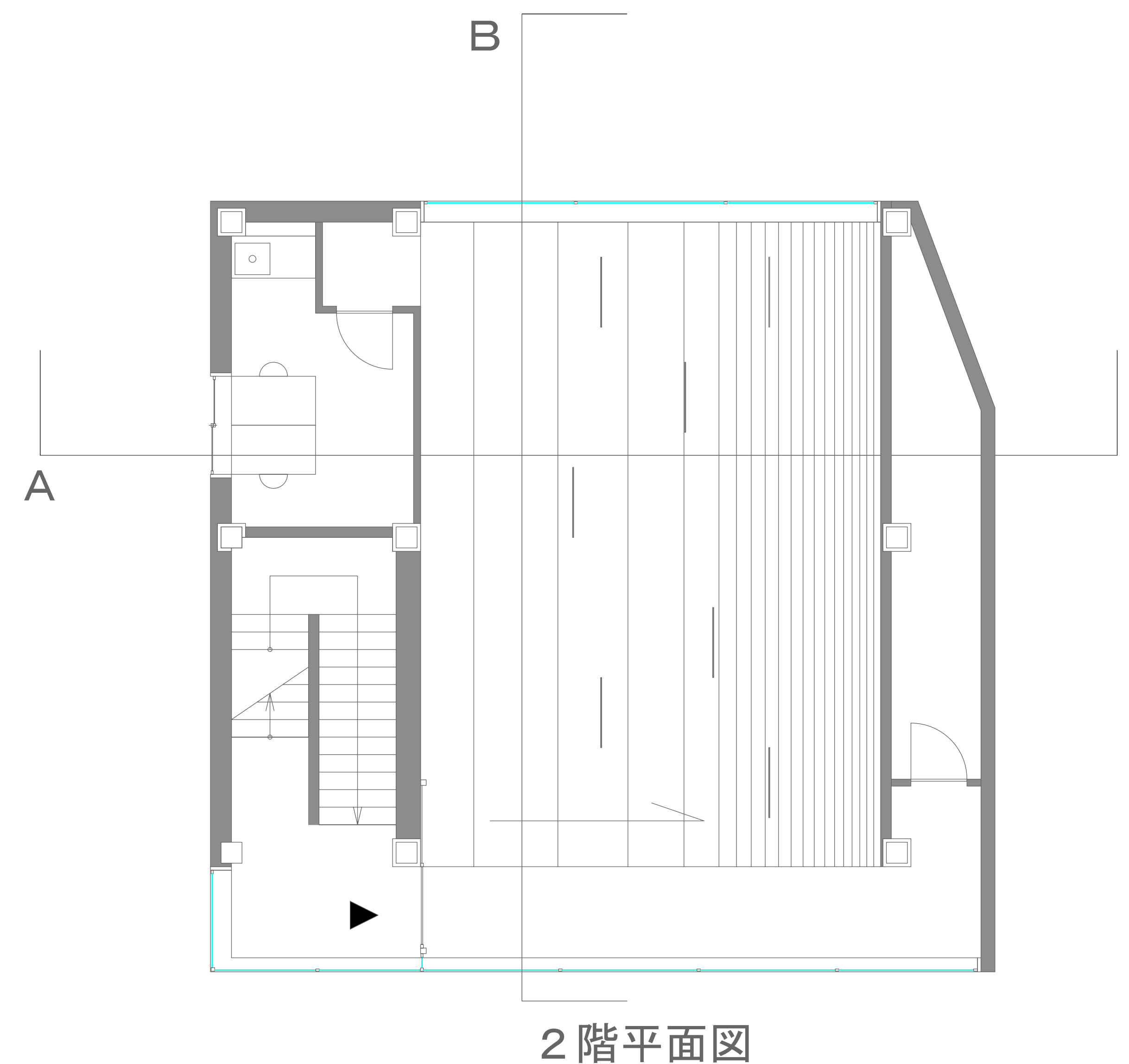
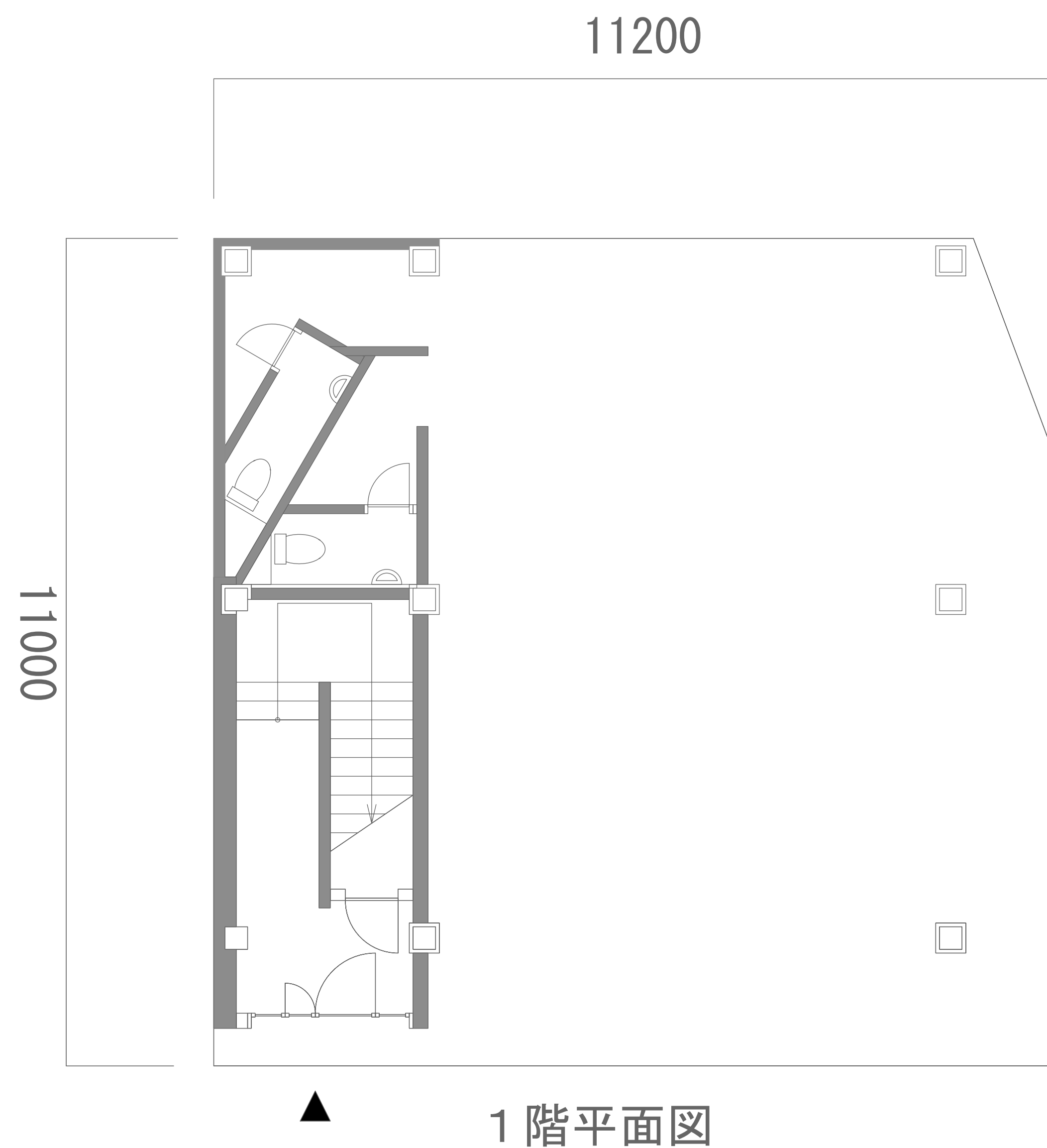


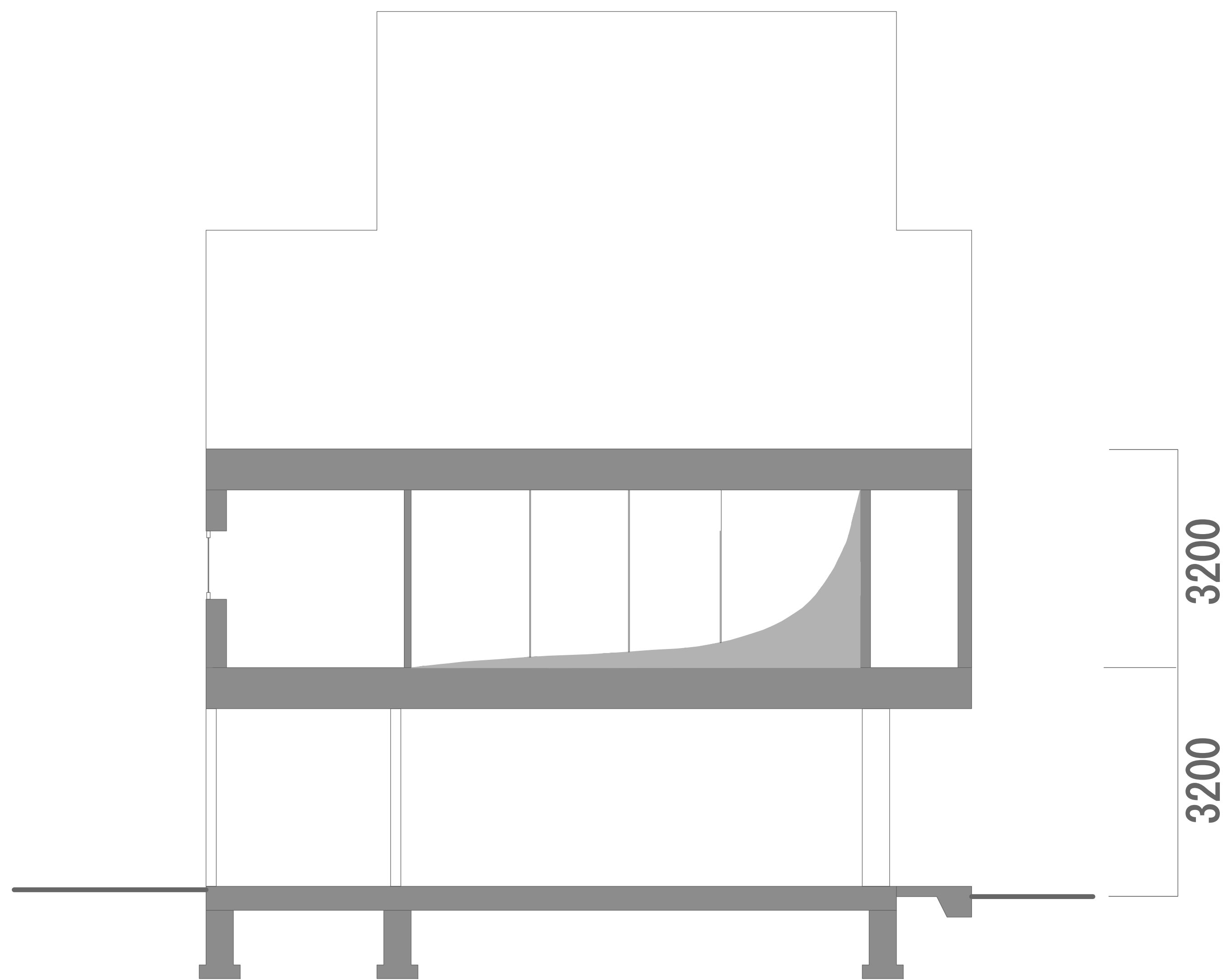
断面图



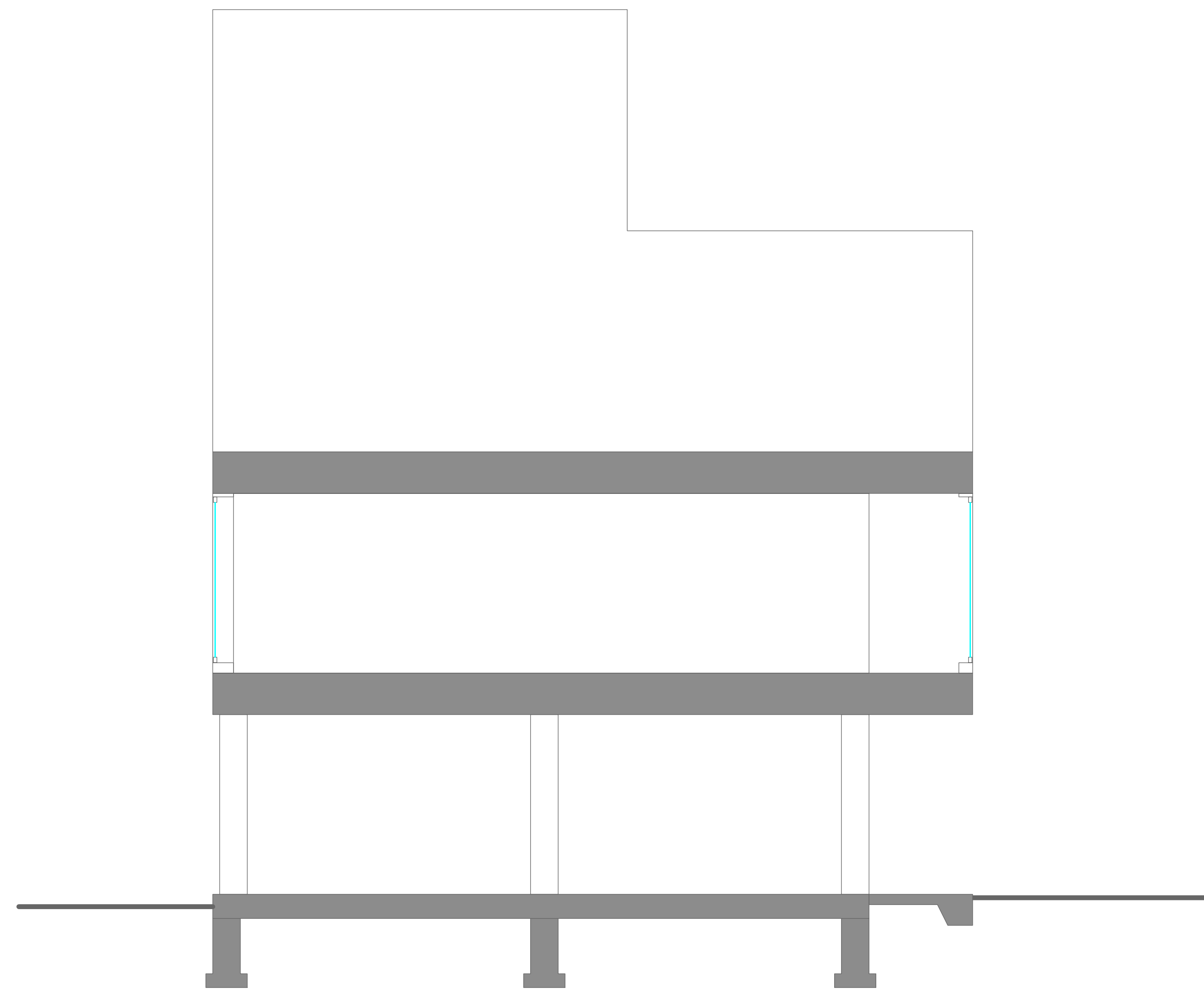
site4 鏡とピロティ

銭湯には多くの鏡が設置されている。
大空間の中での自己と他者の投影は、
自然と意識を拡張させている。
ピロティ空間天井部にミラーを設置する。
すると、中庭からは外部が取り込まれる。
外部からは中庭の青い壁を印象づけられ、
内部の青い空間を期待させるだろう。

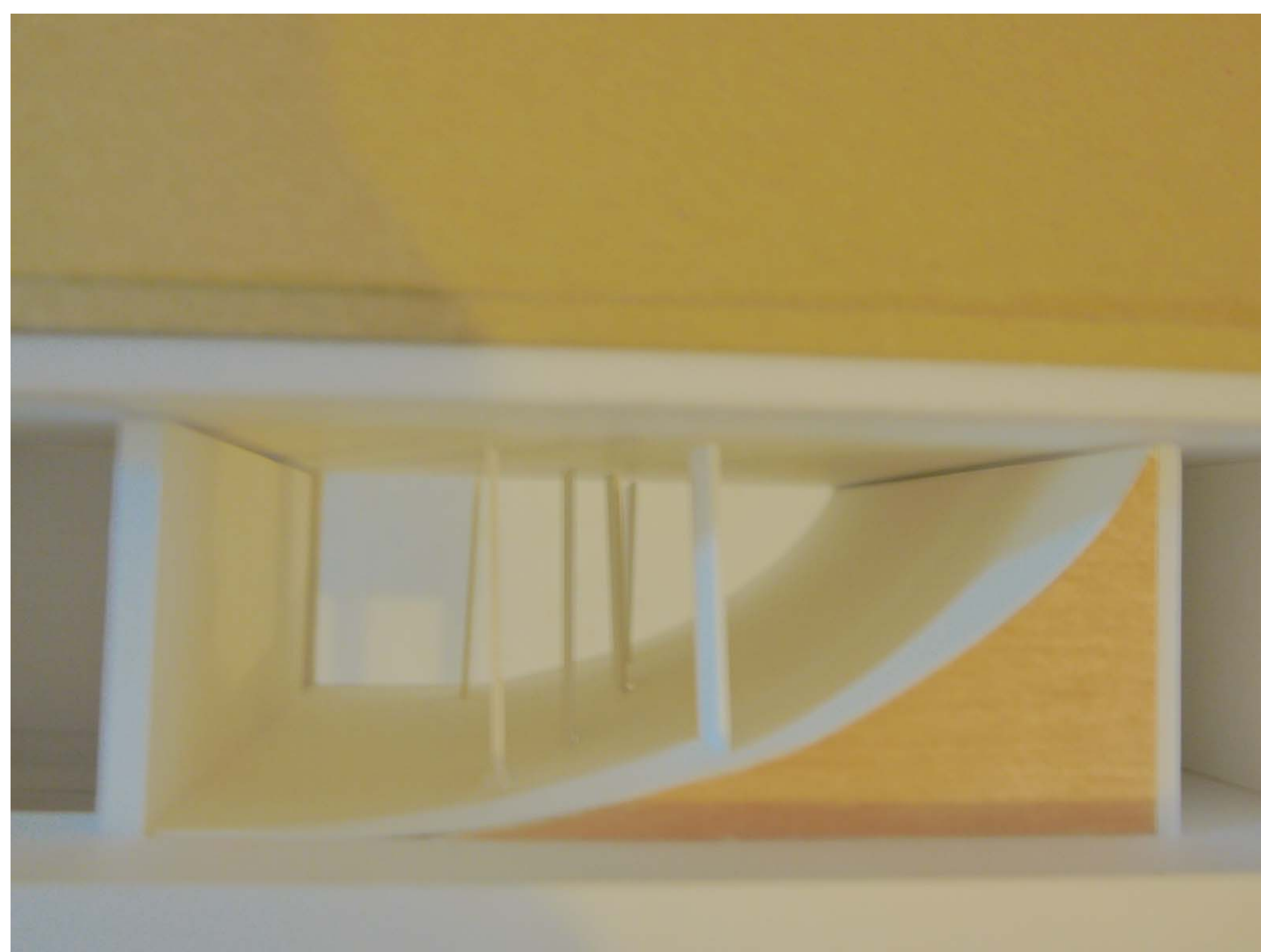




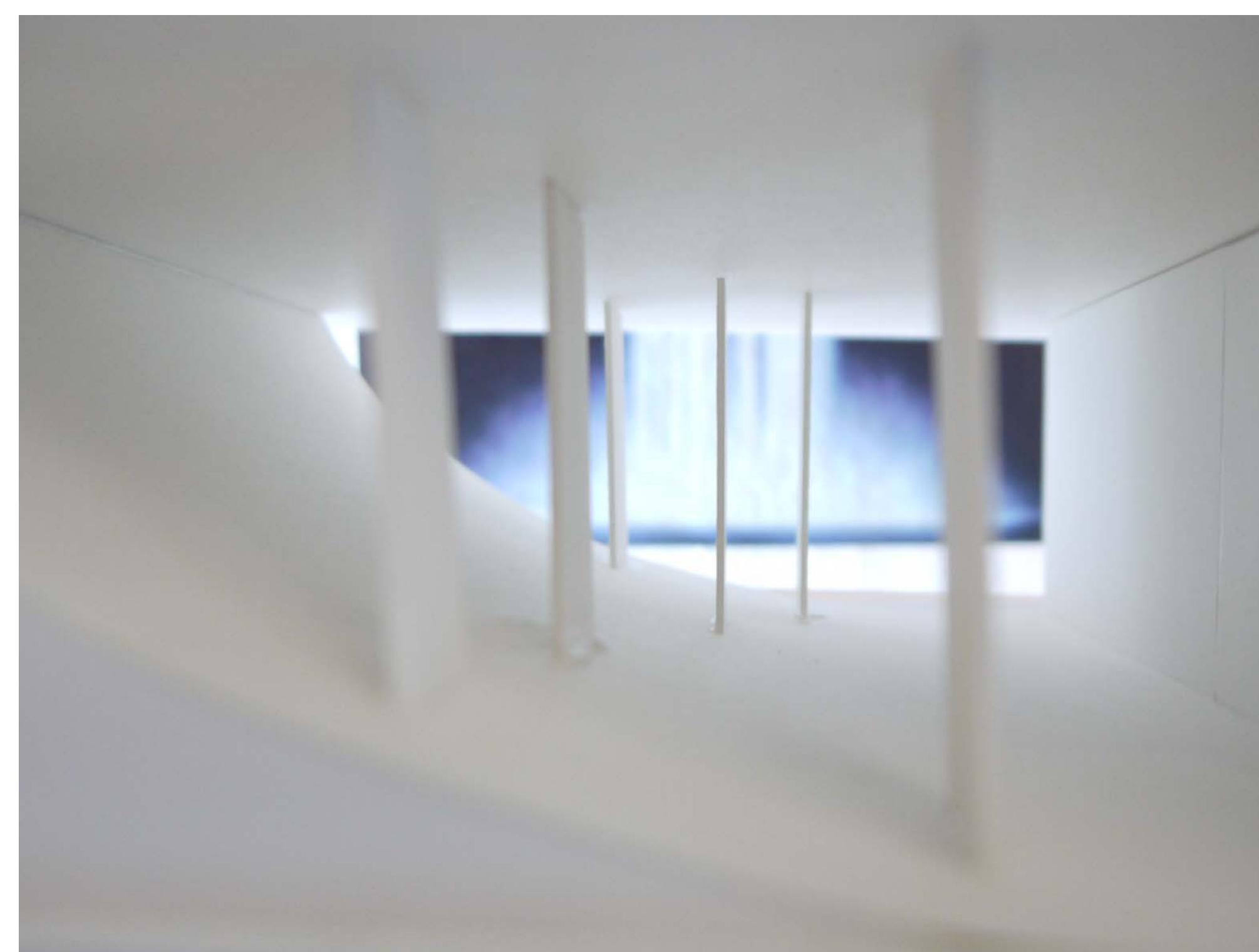
A断面図



B断面図



銭湯屋根に上っているかのような空間



東西方向に抜けのある展示パネルを設置することで
外部である西側駅舎壁も展示スペースとして利用する